



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 **No.174**

2011(平成23)年10月 8日(土)発行



「残念ながら、原子力最後の日は見る事ができず、私の方が先に逝かねばならなくなりましたが、せめて「プルトニウム最後の日」くらいは、目にしたかったです」

(岩波新書・高木仁三郎『原発事故はなぜくりかえすのか』より)

○2000年10月8日は、生涯を原発問題に捧げ62歳でガンに斃れた市民科学者、高木仁三郎氏の命日です。1998年4月25日、原町でも講演会が開催されました。あの頃、氏の意見が採用されていれば、今日の原発事故は避けられたはずです。

南相馬市の「除染署名」、ご協力ありがとうございます

署名活動への御礼と経過報告



朝霜をみる候となりましたが、皆様にはご健勝のことと存じます。

過日、皆様にお願ひした、二つの署名活動について報告いたします。

皆様のご協力をいただきました結果、10月20日現在で、国・東京電力に対する「要求書」への署名数は6,293名でした。また「脱原発」への署名数については1,146名でした。

約半月間で、南相馬市ばかりでなく、県の内外から寄せられた署名の多さに、事務局一同予想以上の結果として受け止めております。このようなささやかな活動が、今後全市民的な動きにつながればと思っております。本当にありがとうございます。

9月末に、「要求書」は国・東京電力に、「要望書」は福島県知事・南相馬市長に送付(南相馬市長には直接手渡し)しました。南相馬市長からは、10月19日付で回答が寄せられました<別紙>。署名簿の整理が終わり次第、国(署名原本)と東京電力(署名コピー)に、東京都の近くに避難している事務局員・会員有志にお願いして直接届けてもらう予定です。なお、「脱原発」への今回分の署名は、「さようなら原発・一千万署名 市民の会」にお送りいたしました。

10月25日、署名の中間集計の事務局会をもち、今回の結果を受けて、さらに多くの市民の皆様に参加していただきたく、第2回の署名活動を11月30日期限として継続実施することにいたしました。皆様には、一層のご協力をお願いいたします。また、「要求書」・「署名用紙」の英訳文を作成し、「はらまち九条の会」のホームページを通じて広く世界に発信する準備も進めつつあります。

皆様方お一人お一人の力により、要求通りに1日も早い除染につながることを願い、お礼かたがたご報告いたします。

2011年10月31日

はらまち九条の会 代表平田慶肇・鹿島九条の会 代表相良正巳
小高九条の会 代表佐藤鶴雄・相双教職員九条の会 代表加藤憲男

① 「除染・子どもたちが安心して暮らせるまちに」の署名<署名集計詳細> 10月20日現在

南相馬市から2,621名・福島県外から2,762名の署名が集まりました

署名総数 **6,293名** 内訳 南相馬市 2,621
<署名活動期間:10月4日~20日> 福島県内 910名 } ・署名は、会員60名・一般の方40名から、届いています。
福島県外 2,762名県

内(29市町村) 福島市・相馬市・須賀川市・浪江町・いわき市・本宮町・新地町・船引町・三春町・会津若松市・二本松市・富岡町・喜多方市・会津田島町・矢吹町・古殿町・平田町・飯舘村・郡山市・大熊町・伊達市・桑折町・猪苗代町・双葉町・小野町・玉川村・葛尾村・田村町

県外(28都道府県) 東京都・北海道・宮城県・秋田県・岩手県・秋田県・山形県・新潟県・群馬県・埼玉県・栃木県・千葉県・神奈川県・長野県・三重県・京都府・愛知県・大阪府・兵庫県・広島県・山梨県・岡山県・高知県・愛媛県・大分県・福岡県・熊本県・鹿児島県・タイ(バンコック)

この署名はさらに、<11月30日>まで延長させていただきます!

■署名の宛先は、引き続き、事務局井上由美(〒975-0031福島県南相馬市原町区錦町1-43 井上薬局内 TEL0244-22-7511・FAX0244-26-0892)まで、直接お届けか、郵送、ファックスをお願いいたします。

② 「さようなら原発・全国一千万署名」も引き続き、来年2月末日までご協力ください!

■これは全国で展開されている署名ですが、本会では第1回10月20日現在で1,146名分が集まりました。来年2月まで募集します。集まり次第、同じく<事務局井上由美>までご提出ください。

○「要望書」について、桜井勝延南相馬市長より10月19日、下記の「回答」をいただきました。

南相馬市長より「要望書」に対する回答

本市では、平成23年7月に南相馬市放射性物質除染方針を策定し、これまで学校等の公共施設を中心に除染を実施してきたところです。

本方針においては、除染目標を、「当面（平成23年度中）は、除染を実施した施設の放射線量の半減を目指し、更に除染活動を継続することで、将来の空間放射線量を1ミリシーベルト/年未満とする」こととしております。

今後は、民間住宅等を含めた本市の除染計画を策定し、除染を順次進めてまいります。成人に比べて、子どもは放射線に係る感受性が高いことに留意し、成人が受ける放射線量よりも10%程度低くなるよう目標を設定し、学校、公園など子どもの生活環境を徹底的に除染していく考えです。国に対しても、この目標の実現に向けて、財政支援を含めてあらゆる施策を講じるよう引き続き強く求め、市民が安心して暮らせるまちとして復興を遂げるよう努力して参ります。
(事務担当：市長公室除染対策室)

<下の10月30日『福島民報』の報道>のように、10月28日、「除染の徹底を求める署名」6,293人分を南相馬市長に持参し、「子どもたちが安心して帰って来られる町にするよう」に強く要望しました。

さらに12月中旬には、野田総理大臣と東京電力西澤社長に、集計されたすべての署名を直接届ける予定です。▼

除染求め6293人署名
南相馬市長に披露
九条の会

子どもたちが安心して暮らせるよう国と東京電力の除染を要望していたはらまち九条の会、鹿島九条の会、小高九条の会、相双教職員九条の会は二十八日、南相馬市役所を訪れ、桜井勝延市長に集めた六千二百九十三人の署名を披露した。

訪れたのは平田慶肇はらまち九条の会代表、反原発の詩を発表している若松文太郎さんら五人。九月三十日に桜井市長に年間一

署名は
南相馬市長へ
さらに12月に
総理と東電社長へ
直接届けます



以下に除染するよう協力を求め、国、県に要望書を送っていた。市は「除染を継続し、将来の放射線量を年一〇以下に除染するよう答している。」

集めた署名は市内の二千六百二十一人と県内二十八市町村の九百十八人、県外二十八道府県の二千七百六十二人。四日から二十日までの第一回分で、東京電力、国に提出する。十一月三十日まで第二回分を集めている。

平田代表は「子どもがあるさつに帰られるよう、署名活動を続けたい」と話している。

桜井市長(中央)に除染の署名簿を披露する九条の会代表

気軽に、すぐ参加できる



デモ行進で原発反対訴え

フクシマの命と未来を放射能から守る会は5日、南相馬市原町区でデモ行進を行い、「原発反対」を訴えた=写真。

除染の徹底などによる子どもたちを放射性物質から守り、原発再稼働の阻止、適切な補償を訴えようと、主催者発表で約50人が参加した。

呼び掛け人の小武海三郎さんがあいさつ、中野目憲一事務局長が注意事項を説明した後、市文化センター前駐車場を出発。「原発反対」などと訴えながら、参加者は駅通りを往復した。

えっ、原町で毎月“反原発のデモ”が?!
南相馬市で反原発のデモが、右記事<11月7日『福島民友』>のように、毎月行われています。純粋に市民の自主的なデモで、9月7人、10月40人、11月50人と増えて注目されています。12月にも開催。

来年1月のイベント

- 1月8日(日)南相馬市成人式会場のゆめはつ前で、「憲法」小冊子を新成人に配布します。5年目です。
- 1月15日(日)アーサー・ビナードさん講演会 ・会場:南相馬市中央図書館マルチメディアホール ・共催:南相馬市中央図書館 南相馬市国際交流協会 ・後援:はらまち九条の会 とよかんのTOMOみなみそうま等